1. 略歴

1987年3月	東京大学文学部第1類哲学専修課程卒業
1990年3月	東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士課程修了
1990年4月	同 博士課程進学 (1994年9月 退学)
1991年10月	ケンブリッジ大学大学院古典学部 Ph.D.コース入学
1995年10月	同大にて Ph.D.取得
1996年10月	九州大学文学部講師 (哲学・哲学史)
1998年4月	九州大学文学部、大学院人文科学研究科助教授 (哲学・哲学史)
2002年4月	慶應義塾大学文学部助教授 (哲学)
2006年3月	オランダ・ユトレヒト大学訪問研究員 (慶應義塾大学塾派遣留学: 2007年9月まで)
2007年4月	慶應義塾大学文学部准教授 (哲学)
2008年4月	慶應義塾大学文学部教授 (哲学)
2016年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

西洋古代哲学、西洋古典学

b 研究課題

西洋における哲学の成立を、古代ギリシア哲学の初期から後期にかけて、哲学史と古典文献学の手法を用いながら多角的に検討することを課題とする。主なテーマとして、(1) 紀元前5~4世紀の古典期アテナイの知的状況、具体的には、ソフィスト思潮、ソクラテス、ソクラテス文学、プラトン、イソクラテスら、(2) 初期のイオニアとイタリアの知的状況、および、(3) ヘレニズム期から古代後期にかけての継承と展開、を扱っている。それらの分析をつうじて、現代における「哲学」のあり方を根源から見直し、新たな視野を得ることを目的としている。

また、古代ギリシア哲学が、19世紀以降の日本や東アジアにどのように導入され、翻訳や研究をつうじて社会や思想に影響を与えてきたかという受容史、もテーマにしている。

c 概要と自己評価

これまで、(1)の古典期アテナイ哲学を研究の中心に据えて、複数の研究書など成果をまとめ、プラトン『ポリテイア』を中心とする「イデア論」の解明をより詳細に進めた。2021年3月に(1)と(2)の検討をまとめて、『ギリシア哲学史』(筑摩書房)として公刊したが、引き続き(3)の範囲の検討を続け、『続ギリシア哲学史』として出版する予定で研究を進めている。これらの作業をつうじて、ギリシアで哲学が誕生した前6世紀初めから終焉を迎えた後6世紀前半のローマ後期までの古代哲学の全体像を描くことになる。『ギリシア哲学史』は、姫路市主催の第34回和辻哲郎文化賞(学術部門)を受賞した(2022年3月6日、姫路文学館)。

また、哲学をより広く展開する「世界哲学・世界哲学史」のプロジェクトを国内外の研究者と共同で進めている。その成果は『世界哲学史』(ちくま新書、全8巻+別巻、2020年)として編集・執筆した。

d 主要業績

(1) 著書

- 共編著、『世界哲学史4—中世II 個人の覚醒』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020.4
- 共編著、『世界哲学史5—中世III バロックの哲学』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020.5
- 共編著、『世界哲学史6—近代I 啓蒙と人間感情論』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020.6
- 共編著、『世界哲学史7—近代II 自由と歴史的発展』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020.7
- 共編著、『世界哲学史8—現代 グローバル時代の知』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020.8
- 単著、『対話の技法』、笠間書院、2020.11
- 共編著、『世界哲学史 別巻—未来をひらく』、伊藤邦武・山内志朗・中島隆博・納富信留編、ちくま新書、2020.12
- 単著、『ギリシア哲学史』、筑摩書房、2021.3
- 単著、『西洋哲学の根源』(放送大学教材)、放送大学教育振興会、2022.3

(2) 論文

- 納富信留、「浄めとしてのオリムピック —エンペドクレスの奇跡」、『三田文学』142 夏季号 2020、三田文学会、196-200 頁、2020.8
- 納富信留、「大西祝の批評主義から見る『哲学雑誌』、『哲学研究』605号(特集:座談会 日本におけるアカデミズムの哲学史 —『哲学雑誌』と『哲学研究』の比較分析)、50-57 頁、2020.10
- 納富信留、「古代哲学をどう読むか —レオ・シュトラウスとプラトンと私」、『ひらく』4、89-98 頁、2020.11
- 納富信留、「哲学がうまれる」、葛西康徳、ヴァネッサ・カツァート編『古典の挑戦 —古代ギリシア・ローマ研究ナビ』、知泉書館、361-378 頁、2021.3
- 納富信留、「プラトン」(第1編 テーマ編)「プラトン」(第3編 人名編)、『ハイデガー事典』ハイデガー・フォーラム編、昭天堂、138-139, 499 頁、2021.6
- Noburu Notomi, “How Modern Japanese People Read Plato’s *Politeia*”, *Plato and His Legacy*, Yosef Z. Liebersohn, John Glucker, and Ivor Ludlam (eds.), Cambridge Scholars Publishing, 219-232 頁、2021.7
- 納富信留、「プラトン『パイドン』はどう読まれたか、どう読むべきか」、『西日本哲学会年報』29号、西日本哲学会編、41-64 頁、2021.10
- Noburu Notomi, “Images and Imagination in Plato’s *Republic* and *Sophist*”, *The Journal of Greco-Roman Studies* 60-3, the Korean Society of Greco-Roman Studies, pp.1-15、2021.12
- Noburu Notomi, “Plato, Isocrates and Epistolary Literature: Reconsidering the *Seventh Letter* in its contexts”, *Plato Journal* 23, International Plato Society, 67-79 頁、2022.3
- 納富信留、「ソフィストたちのオリムピック —文化・政治・哲学的意義—(シンポジウム:オリムピック—古典古代のからだとところ—)、日本西洋古典学会編『西洋古典学研究』69、岩波書店、99-108 頁、2022.3
- 納富信留、「ギリシア哲学が直面した運命と偶然 —オイディプス、ソクラテス、アリストテレス—(特集1 運命と偶然)、『比較思想研究』第48号、比較思想学会、5-12 頁、2022.3
- 納富信留、「「真実の虚偽」とは何か? —プラトン『ポリテイア』の虚偽論序説—、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室『論集』40号、1-20 頁、2022.3

(3) 書評

- 納富信留、「裏側にある制約 果敢に暴く」(木村寛著『笑いの哲学』)、『日本経済新聞』、2020.9.26

(4) 学会発表

- 国際、Noburu Notomi, “Socrates among the sophists: reconsidering his position in the fifth century BC”, ISSS (International Society for Socratic Studies), Virtual Socrates Colloquium 8 (Online), 2020.9.2
- 国際、Noburu Notomi, “Images and Imagination in Plato’s *Republic* and *Sophist*”, The 3rd Asia Regional Meeting of the International Plato Society, Plenary Session, Seoul National University (Online), 2020.11.28
- 国内、納富信留、「プラトン『パイドン』はどう読まれたか、どう読むべきか」、西日本哲学会第71回大会シンポジウム「魂の不死をめぐる系譜—古代哲学と近代哲学のダイアローグ」、佐賀大学(オンライン)、2020.12.6
- 国内、納富信留、「ソフィストたちのオリムピック—宗教・文化・政治的意義—」、西洋古典学会第71回大会シンポジウム「オリムピック—古典古代のからだとところ—」、国際基督教大学(オンライン)、2021.6.5
- 国内、納富信留、「ギリシア哲学が直面した運命と偶然—ソフォクレス『オイディプス王』とアリストテレス『詩学』を中心に—」、比較思想学会第48回大会シンポジウム「運命と偶然」、東京大学文学部(オンライン)、2021.6.26
- 国際、Noburu Notomi, “Japanese Philosophers on Plato’s Ideas”, *London Lectures 2021: Expanding Horizons*, The Royal Institute of Philosophy, London, Online, 2021.11.25

(5) 解説・総合報告

- 納富信留・中島隆博、対談「ロゴスと道」、岩波書店『思想』1154号、6-28 頁、2020.6
- 納富信留、対談「プラトン『ソクラテスの弁明』: 哲学二千年の謎を解く —死の理由、そしてプラトンの戦略とは—」、駒井稔+「光文社古典新訳文庫」編集部編著『文学こそ最高の教養である』、光文社新書、541-584 頁、2020.7
- 納富信留、シンポジウム「ことばのあり方 —哲学からの考察—」、東京大学文学部広報委員会・編『ことばの危機 —大学入試改革・教育政策を問う—』、集英社新書、117-148 頁、2020.6
- 納富信留、座談会「日本におけるアカデミズムの哲学史 —『哲学雑誌』と『哲学研究』の比較研究—」、『哲学研究』605号、78-108 頁、2020.10
- 中島隆博・納富信留、対談「「哲学の未来」っていったい? —思考を更新するための条件をめぐって—」、『未来哲学』創刊号、59-104 頁、2020.11

Noburu Notomi, “Interview: Intellectual innovation and cities, learned from Athens with diverse intellectuals”, host: Osamu Naito, Hitachi Research Institute, 2021.6

納富信留、「インタビュー 第 51 回 多彩な知識人が集うアテナイに学ぶ知的イノベーションと都市」、『日立総研』vol. 16-1、日立総合計画研究所（聞き手：内藤理）、4-11 頁、2021.5

納富信留、対談「ことば見聞録 第五回 納富信留・川野里子」、『歌壇』第 35 巻第 11 号、本阿弥書店、52-71 頁、2021.11

(6) 新聞・雑誌記事

納富信留、「当たり前前の日常、偶然の産物：新型コロナ 予期せぬ出来事に辛抱強く」、『読売新聞』、2020.4.1、17 面

納富信留、「「当たり前」とは、維持することが難しい、有り難いこと」、『清流』320、24-25 頁、2020.12

納富信留、インタビュー（あすへの考）「なぜ言葉を交わすのか 対話 生き方に関わる技法」、『読売新聞』、2021.5.30、6 面

納富信留、インタビュー「集まる、観る、讃える 五輪の求心力」、『朝日新聞』「文化」、2021.8.5、23 面

納富信留、インタビュー「「気晴らし」か「余暇」か ギリシャ哲学から考える五輪」、連載「語る 五輪」第 4 回、朝日新聞デジタル、2021.8.13

納富信留、「ギリシャ哲学をはじめると：プラトンを読む。」、『Brutus』「特集：はじめる。今考える最良のはじめ方カタログ」、35 頁、2022.3.1

(7) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究（B）、納富信留、Noburu Notomi、研究代表者、「古代ギリシア文明における超越と人間の価値—欧文総合研究—」、2016～2022

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

納富信留、講義「西洋古代が抱えた不安」、東京大学朝日講座「不安の時代」、東京大学文学部（オンライン）、2020.10.7

納富信留、講義「論理学とは何か？」、東京大学公開講座「論理」、東京大学安田講堂（オンライン）、2020.11.7

納富信留、コメンテータ「世界哲学プロジェクト紹介」、第 38 回日本哲学史フォーラム「Histories of Philosophy in a Global Perspective プロジェクト基調講演」、京都大学文学部（オンライン）、2020.12.18

納富信留、報告「世界哲学史の軸としての中国とヨーロッパ」、EAA 連続シンポジウム「世界哲学・世界哲学史を再考する」、第 1 回「世界哲学史の可能性：中国とヨーロッパを付き合わせる」、オンライン、2021.3.9

納富信留、対談「あらためてギリシア哲学史を語る」（『ギリシア哲学史』（筑摩書房）刊行記念）、本屋 B&B 対談、納富信留×栗原裕次、世田谷代田、2021.5.30

納富信留、コメンテータ「ΠΕΡΙ ΦΥΣΕΩΣ ギリシア哲学、世界哲学からの考察」、「米虫正己『自然の哲学史』書評会」（オンライン）、2021.6.12

納富信留、報告「啓蒙とは何か？ 現代の問題状況と対話の哲学」、第 2 回文工 Zoom サロン（オンライン）、2021.6.30

納富信留、講演「「志向倫理」を哲学する ～志向倫理を多面的にとらえる～」、令和 3 年度研究倫理ウィーク「研究倫理セミナー：「志向倫理」と「責任ある研究・イノベーション」」、東京大学研究倫理推進室（オンライン）、2021.9.29

納富信留、講演「古代ギリシア哲学から見た現代—自然・魂・知性—」、第 25 回東京大学文学部・常呂高校特別講座、常呂高等学校体育館、2021.11.12

納富信留、講義「ギリシア哲学における生き方・死に方」、かわさき市民アカデミー「人間学再論—生・老・病・死の哲学」、川崎市生涯学習プラザ（会場・オンライン併用）、2021.12.2

Noburu Notomi, Lecture “Reconsidering Values from Ancient Greek Philosophy”, EAA-NYU-Bonn Intensive Course: “Value Values, Social, Humans”, EAA, the University of Tokyo (Online), 2022.2.9

納富信留、講演「世界哲学におけるギリシア哲学」、東大人文熊野フォーラム in 新宮、新宮市丹鶴ホール、2022.2.20

納富信留、講演「受賞にあたって」、第 34 回和辻哲郎文化賞授業式、姫路市市民会館大ホール、2022.3.6

(2) 学会

International Federation of Philosophical Societies (FISP), Steering Committee Member, 2018.8～

International Plato Society, Advisory Board, 2013.7～

日本学術会議・連携会員、2014.10～

日本西洋古典学会・委員、2001.6～、常任委員、2016.6～

日本哲学会・評議員、2011.6～、理事、2021.6～

新プラトン主義協会・理事、2018.9～

フィロロギカ [古典文献学研究会]・編集委員、2005.10～

ギリシャ哲学セミナー・運営委員、2005.9～、幹事、2015.9～、代表、2021.9～

The Korean Society of Greco-Roman Studies, Editorial Board、2008.8～

Korean Philosophical Association, Editorial Board、2013.3～